

事業実績書

- 1 事業名 水害は「逃げるが勝ち！」
- 2 実施期間 令和2年4月22日～令和3年3月31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

(1) 目的

- ・ 川辺地区住民が学び得た防災の知識を生かした防災減災に向けた活動になる。
- ・ 川辺地区住民が防災を自分のこととして意識することができる。
- ・ 川辺地区住民が避難訓練や安否確認の仕組みを身近なものと理解する。
- ・ 川辺地区住民が SNS を活用した安否確認の仕組みづくりに取り組むことができる。
- ・ 川辺地区住民の SNS が使えない人には町内会の連絡網を使い安否確認の取組ができる
- ・ 若い世代を中心にした団体（子育てママ、女性ならでは）が地域の防災活動の担い手になる。
- ・ 川辺地区住民が防災について取り組むことが、他の地域のモデルとなる。

(2) 概要

防災減災をすすめる事業として水害は逃げるが勝ちに向けての取り組みを行った

ア 防災カフェ

毎月、楽しくおしゃべりをしたり、お茶を飲んだりしながら和やかな雰囲気の中で、住民や自分たちが知りたいことを学び、体験することができた。

なお、場合によって LINE 等を活用した生配信を実施し、コロナ対策を行いながら開催した。

(人数)

- | | | |
|-------|-----|---|
| 5/31 | 11人 | オンLINEでさんぽ（香川大学 磯打千雅子）
〈生配信 約200回視聴〉 |
| 6/23 | 11人 | 簡易トイレをつくろう（香川大学 磯打千雅子）
〈生配信 約100回視聴〉 |
| 7/15 | 13人 | 車中泊の極意（香川大学 磯打千雅子）
〈生配信 約200回視聴〉 |
| 8/7 | 10人 | 避難所について聞いてみよう！（倉敷市防災危機管理室 渡邊直樹） |
| 9/24 | 11人 | 要配慮者の非難について（ぶどうの家 津田由紀子） |
| 10/13 | 7人 | 安否確認グッズの使い方について（香川大学 磯打千雅子） |
| 11/24 | 7人 | 地震・安否グッズを使った避難訓練について
(香川大学 磯打千雅子) |
| 12/11 | 8人 | クロスロードゲームで災害時の動きを考えよう
(ピースウィンズ・ジャパン富樫、中村) |
| 1・2月 | | コロナウイルス感染拡大により中止 |
| 3/23 | 9人 | LINEを使ってみよう（あるく代表 槇原聡美、スタッフ）
災害後スマートフォンに移行した方が多く、情報収集や災害時の連絡方法として活用の利便性などから開催した。 |

- 安否確認のルールづくりについては、具体的な取組を考える（企画・作成・普及）ために地域で活動する団体と連携し、話し合いを重ねた。

その結果、「黄色いタスキ」を使った安否確認や防災訓練を協働してできるように取組はじめたところである。

まずは、川辺地区まちづくり推進協議会が町内会を通じて配布を開始した。漏れたところや町内会がない戸建ての家、アパートなど集合住宅には関係諸団体で手分けをして全戸に配布しているところであり、次年度の防災訓練に向けた準備を進めている。

イ 川辺みらいミーティング

「目指そう！逃げ遅れ“ゼロ”の川辺地区」をスローガンに掲げ、被災後のまちづくりを地域の課題としてみんなで考えるためのミーティング（防災研修）を関係諸団体と協力して開催した。

実行委員会（毎月1～2回開催）についても、会場の人数制限とZOOMを使って開催した。

また、コロナ禍で川辺みらいミーティングの開催が難しかった時期には、防災意識の向上と出水期前の不安を緩和させるために、アンケートの実施や啓発チラシの配布を川辺地区住民およそ1500世帯対象に行った。

- 5月上旬 アンケート「マイ避難先について」配布・回収・分析

西日本豪雨災害当時の避難先と今後の避難先についてをワークシート形式で具体的に記入することで、事前に避難先の候補を個々で考えるきっかけ作りをした。

- 5月下旬 啓発チラシ「マイ避難先を考えてみよう」配布

出水期を前に避難についての考え方や事前に避難先について考えておくように呼び掛けた。

- 6月下旬 啓発チラシ「最低限知っておいてほしいこと」配布

「マイ避難先アンケート」の結果を盛り込み、避難のタイミングや災害情報の取得方法、近所への声掛けなどを喚起した。

（人数）

- 7/19 42人 第4回川辺みらいミーティング

「考えよう！マイ避難先 アンケート結果報告会」

コロナ感染拡大防止のため、YouTubeでの生配信（約300回視聴）を行い、会場参加を制限して開催した。

- 11/21 45人 第5回川辺みらいミーティング

「防災まち歩き」

香川大学 磯打千雅子先生と香川大学の学生さんがファシリテーターとなって開催した。

避難時に役立つため、水害や地震を想定して、危険個所を確認したり、地域の歴史を教えてもらったりしながらまち歩きを行い、ポイントを地図に落とし込み、防災マップを作成した。

地域を知り、防災を我がこととできる機会となった。

- 1/16 19人 第6回川辺みらいミーティング

「小学生&大人合同 防災まち歩き報告会」

11月2日には川辺小学校5年生の子どもたちも、香川大学の学生さんのガイドで防災まち歩き（防災マップづくりと併せたもの）を行ったが、その成果について、11月21日に行った大人の防災まち歩きと合同の報告会を実施した。

なお、子ども達については、コロナ感染症予防対策として学校で事前に録画してもらい、当日はDVD映像での報告披露とした。また大人の参加者数も必要最小限に抑えるために、YouTubeでの生配信を実施した。（約200回視聴）

ウ キッズ防災事業

（人数）

10/31 35人 ハロウィンだよ！楽しく防災やってみよう！

「今回のテーマは地震だよ！」

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンを講師にお招きし開催した。

豪雨災害の中で子どもたちが「早く逃げよう」と親や家族の避難スイッチを押したことで、早めの避難行動につながったケースが多くみられた。このように、子どもたちの学びが家族・地域の防災意識の向上につながると考えられることから、子どもたちに対して「楽しさ」を盛り込んだイベントを実施した。

内容：地震についての学習、地震時の非常用持ち出し品、持ち出し品を活用したゲーム、非常食の試食（長期保存が可能なクッキー）など

11/ 2 約35人 小学校5年生が対象の防災マップづくり

小学校と連携し、まち歩きを行い、防災マップを作った。子どもたちにとっては自分の町を知る良い機会となった。

エ 「防災おやこ手帳」の作成

被災当時のエピソードに加え、実際の被災体験や子育て世代のお父さん・お母さんを対象に行ったアンケート結果等を参考にマイ避難先、避難のタイミング、避難準備品は何？といった水害に特化した内容を掲載した。（約1万部発行）

活用事例は次のとおり。

（人数）

10/下旬 「防災おやこ手帳」の配布

真備地区の保育園、幼稚園、小学校を通じて子どもがいる全世帯に配布した。避難スイッチなどについて家族で話し合う機会となった。

また、SNSやメディアを通じて完成を伝え、必要とする方に郵送し、防災教育や地区防災研修、防災減災に向けた活動をしている団体などの教材として活用されている。

12/ 9 約20人 「防災おやこ手帳」の中学校での活用

真備東中学校の総合学習の時間で「防災おやこ手帳」を活用した防災学習を実施してもらった。

学習の一環として、中学生がスーパー（ディオ等）の前で手帳の配布や内容の説明などを来店者に行うといった防災啓発活動を実施した。

オ 防災減災に向けての啓発活動

私たちの経験に基づいて計画実現してきたイベントや防災の仕組みづくりについて、講演活動等を通じて、備中県民局管轄の内外、県内外に発信した。

○ 講演活動 11回（香川大学、東京都渋谷区、里庄町、玉野市など）

○ 防災展への参画

2021.2.23（火）防災展

（場 所）アリオ倉敷

（主 催）一般社団法人おかやま笑顔プロジェクト

（展示内容）防災おやこ手帳の配布（160冊配布）

川辺地区の被災状況写真の展示 など

○ その他（書籍、広報誌、番組出演など）

→ 詳細は別添「令和2年度啓発活動報告（川辺復興プロジェクトあるく）」

② 事業の流れ等

事業計画書に基づき実施できるよう、感染症拡大防止を考慮しつつ、各関係諸団体と密な連携を図りながら、事業進捗を図った。

③ 成果・効果

少人数で防災について学ぶ『防災カフェ』、川辺地区住民全体及び、様々な団体と協働しての『川辺みらいミーティング』や『キッズ防災教室』など、色々なアプローチで防災意識と防災知識の向上を目指すことができた。また、これらの事業は多様な世代や団体と共に事業を進めていくことで、参加者が防災・減災について自分事として考えることができるように企画運営し、参加者が主体的に参加することができる、楽しさを盛り込んだ取組ができたことは大きな成果と考えている。また、私たちの経験や学びを県内外の多くの方に伝える講演会やメディア出演、啓発活動の機会をいただき、未災地の皆さんにも災害から命を守ることを考えるきっかけになったと感じている。

『防災おやこ手帳』や『黄色いタスキ大作戦』については、作成する過程の中でも災害を振り返り、改めて防災について考えるきっかけになったとともに、これらを活用するための活動に発展させていくことで更に備えることの重要性を訴えかけることができている。

また、『マイ避難先を考える為のワークシート形式アンケートの実施』や『啓発チラシの配布』、そして、ZOOMを活用した会議やYouTube、LINEライブを活用したイベントの開催など、コロナ禍であっても停滞することなく事業を進めることができた。対面のみで事業を進めるだけでは参加が難しかった方や家から視聴する方などが気軽に参加できたことで、事業の広がりにもつながった。

災害やコロナなどの非常事態においても、置かれた状況を逆手にとって地域課題解消に向けての取組や防災・減災への取組を続け、発展させていくことができた。

④ 今後の課題・展開等

“地域力”と“防災力”この2つが合わさることで相乗効果が生まれることが『黄色いタスキ大作戦』によって再確認することができた。今後も地域のコミュニティ再構築を継続しつつ、参加者が「参加したい。知りたい。」と思える防災イベントの開催

を目指し、参加者を増やしていくことで、町内会や地域の地区防災計画の制定に向けて進めていくことができるようにしたいと考えている。

また、『防災おやこ手帳』を作成する中で、持ち出し品の部分についてはもっと具体的な冊子を作成し配布することで、家庭で備えるためのヒントにしていきたいと考えている。

令和2年度で学んだこと、作成したグッズをしっかりと活用して、今後の活動をさらに充実したものにし、西日本豪雨災害の体験を未来に活かす活動を展開していきたいと考えている。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

県民局とは、必要に応じて、協働事業進捗のための打ち合わせを行った。

また、県民局は次により、本取組に係る周知を図るほか、「防災おやこ手帳」について管内市町や各県民局への配布を行った。

- ・ プレス発表

防災おやこ手帳の作成、黄色いタスキの作成などについて、NHK、倉敷ケーブルテレビ等から取材を受けた。

- ・ 県等のパブリシティ媒体での広報

- ラジオ出演（RSK：いきいき備中ほっと情報）
- テレビ出演（TSC：夕方の情報番組「ななスパ」の1コーナー）
- テレビ出演（NHK：リップル～もしも〇〇が起きるとしたら？～）
おやこ手帳を使って備えの考え方を紹介
- 県政広報紙「晴れの国おかやま・2月号」への掲載
全県下に配布される新聞（朝刊）折り込みでの周知
- 内閣府広報誌「ぼうさい 第100号（2月下旬発行）」への掲載 など

4 参考事項・資料

- ・ 令和2年度活動報告 水害は「逃げるが勝ち！」
岡山県備中県民局提案型協働事業 川辺復興プロジェクトあるく
- ・ 令和2年度啓発活動報告（川辺復興プロジェクトあるく）

事業計画書

① 団体名	川辺復興プロジェクトあるく		
② テーマ区分	指定テーマ (1) ・ 自由テーマ		
	該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。		
③ 事業名	水害は「逃げるが勝ち！」	④これまで の採択回数	0回
④ 現状及び課題	<p>平成 30 年西日本豪雨災害により、倉敷市真備町では災害関連死を除く犠牲者 51 名のうち 41 名は高齢者や要援護者であり、そのほとんどは避難をすることなく自宅の 1 階部分で遺体となって発見されており、緊急時に住民同士が助け合うことができる関係性が重要な課題である。</p> <p>発災後、みなし仮設や建設型仮設で住み慣れた地域を離れての再建を余儀なくされており、被災者同士のつながりを密にする活動が求められている。</p> <p>情報交換や連絡網の一つとして携帯電話をスマートフォンに変更した高齢の方も多く正確な情報を共有できる手段となったが、使い方に不慣れである。</p> <p>避難行動に関しても、若い子育て世代は子どもたちの安全を確保するために早めの避難をすることができたが、高齢者や、自力で避難できない方や、災害への意識の低さによって避難のタイミングを逃し、避難の遅れによって自宅で孤立しボートで救出された人も多くいた。</p> <p>発災前の自主防災組織が 58 地区のうち 5 地区のみと低く、防災の意識と知識の向上に向けた活動が必要であった。発災後は住民がバラバラになり町内会の再建もできず組織づくりをするような話し合いもできていないことから、平時の住民同士の顔の見える関係性をつくることが最も重要である。</p> <p>川辺地区は新旧の住民が混在した地域であるという特徴があり、地域のつながりが希薄であることや従来の地域を担う団体も高齢化し、活動の担い手（中心となる若い世代）が不足しており人材の育成も重要であると感じている。</p>		
⑥ 事業内容	<p>【1】 防災・減災をすすめる事業</p> <p>水害は「逃げるが勝ち！」の実現に向けての取り組み</p> <p>① 防災カフェ（毎月 1 回）ただし、1 月 2 月はコロナ感染拡大の為中止</p> <p>防災を身近に感じ、楽しく会話やお茶会をしながら住民の興味に合わせて防災のことを自分たちのこととして考えられるような「防災カフェ」を開催することで、防災の知識を身に付け、楽しく集うことでお互いが顔の見える関係づくりとなる。住民同士の繋がりの強化は災害に強い町を目指す活動となる。防災の小さな勉強会（避難準備品、非常食の試食、ローリングストック、マイタイムラインづくり）など簡単にできることから開催し課題を出し合う機会ともなる。</p> <p>②川辺みらいミーティングの開催（年 3～4 回）</p> <p style="text-align: right;">※（別紙資料添付）（補注 1）</p> <p>ほぼ全世帯が被災した川辺地区において、我が家の再建や地域の復興が始まる中、住民同士が自分のできることを語り合い助け合い地域の再生に向けての活動につなげるための話し合いの場として開催している。災害に遭った私たち住民が、今後も起こるかもしれない災害を自分のこととして捉え、災害からの復興や地区防災計画のモデル事業となるよう防災に関</p>		

心の強い人たちが中心の実行委員会として、誰でも参加できるように企画運営をする。町内会の再建やコミュニティーの構築が自主防災組織のもととなり、話し合いを継続することにより早めの避難と安否確認の必要性を共通理解する場となり、川辺地区住民の防災意識の向上につながる。

そして、川辺みらいミーティングや住民からのヒアリング、話しあった経験や意見をまとめた冊子を作成し、被災した私たちの思いや経験をまとめたものを広く他の地域へ伝えることを目指す。

また、真備町で被災した子育て中の保護者に行ったアンケートの結果を盛り込んだ防災ブックの作成中である。子育てを始める若い世代に向けて、災害の経験を母子手帳の大きさにまとめ、災害時の体験を伝え、どこにでも起こる可能性がある災害の備えの一つとなるものにしたい。

③避難訓練（危険個所の確認、マップ作り）（年1回程度）**第5回川辺みらいミーティングで危険個所の確認を含めた防災まち歩きと防災マップを作成**

防災カフェ、川辺みらいミーティングなどで避難に対する計画を実際に行うことで、シミュレーションを重ね、協議し、逃げ遅れの無い地域を目指す。

④安否確認のルールづくり

平時のコミュニティーを基にした小さい単位（町内会・自治会）で声をかけあえる地域づくりが重要であり、要援護者を把握し災害時に「避難しましょう」「避難しますよ」と声かけや、助け合いのできる取り組みと安否確認ができる仕組みづくりを目指す。~~避難訓練などをモデル地区として2～3か所の町内会を対象に既製の安否グッズを用いて「安否確認ができるか」使用方法や成果などを検証する。~~今年度は、様々な既存の安否確認グッズを取り寄せ、防災カフェにて「川辺地区にとって最適な安否確認グッズの検討」を行った。その中で、活用しやすい形状・素材のもので、「逃げました」ではなく、「無事です」と表記することで防犯上の心配を軽くし、また、住民が愛着を持って活用していただける、「黄色いタスキ」を1700枚作成。川辺地区に住む全世帯に配布をするため、各地域団体と連携して進めている。

そして、安否確認のルールづくりや避難訓練は活動の過程が重要であり、住民の意見や状況にあう取り組みができるように住民が主体となって考えることで、防災意識の向上につながり「逃げ遅れ」の無い地域を目指す活動とする。

無料通信アプリLINE（SNS）で情報の発信や共有をし、平時のコミュニケーションツールとしてお互いの信頼関係をつくることができる。

非常時には、LINEやSNSが使えない世代への情報発信としてショートメッセージを活用した情報発信や安否確認となる仕組みをつくることを目指す。

⑤キッズ防災教育（小学校・幼稚園・NPOと連携）（年1～2回）

被災体験をした子どもたちの中で、親や家族の「避難スイッチ」を押して早めの避難行動につながったケースも多くあった。

子どもたちへの防災教育（身近なものを使って災害についての学びを体験や話を聞く）を行うことで、子どもだけではなく、家族や近所の人たちにとっても意義のあるものであり、子どもたち、学校地域とともに防災について取り組む。

【2】他地区への防災減災に向けての啓発活動

発災後の私たちの経験や取り組みを発表する依頼をたびたびいただいている。

私たちの経験に基づいて計画実現して来たイベントや防災の仕組みづくりは「災害を自分

	<p>のこと」として考えるきっかけとなりそれぞれの防災意識の向上につながる。</p> <p>このような経験を他地区でも講演活動を展開して、防災・減災を備中地区はじめ、岡山県全体に発信する活動にする。</p>
<p>⑦事業目的 (目指す直接の結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川辺地区住民が学び得た防災の知識を生かした防災減災に向けた活動になる。 ・川辺地区住民が防災を自分のこととして意識することができる。 ・川辺地区住民が避難訓練や安否確認の仕組みを身近なものとして理解する。 ・川辺地区住民が SNS を活用した安否確認の仕組みづくりに取り組むことができる。 ・川辺地区住民の SNS が使えない人には町内会の連絡網を使い安否確認の取り組みができる。 ・若い世代を中心とした団体（子育てママ、女性ならでは）が地域の防災活動の担い手になる。 ・川辺地区住民が防災について取り組むことが、他の地域のモデルとなる。
<p>⑧今年度期待される成果 (短期アウトカム) その活動で得られる利益や変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災後 1 年が経過した現在、経験を生かした防災に対する取り組みの重要性を、住民同士共有し、話し合い、意見を集約できることにより、地区防災計画づくりに必要な地域コミュニティが形成される取り組みの場となる。 ・楽しく学び、防災を身近に感じ気軽に参加できる雰囲気、防災カフェを継続することで参加した住民同士が顔の見える関係ができる。 ・防災イベントに参加する人が（発災前毎回 40 人→町内会単位で参加する）増える。 ・安否確認の方法として各町内会単位で SNS を使う、声掛けをするなど具体的な仕組みづくりするための 安否確認グッズの導入を避難訓練や、安否確認のグッズ（既製のグッズ）を試用有用性などの調査検証を協力団体と協議しながら進めていく。 ・子どもたちに防災教室を開催することができ、世代を問わず、防災に関心を持つことができる。
<p>⑨将来的に期待される成果 (中・長期アウトカム)</p>	<p>防災カフェ・川辺みらいミーティング・避難訓練を継続することで地域住民の防災意識（コミュニケーションを密にすることができる）の向上となる。どのような災害、特に水害が発生しても地域住民が逃げ遅れることのないまちになる。そして、安否確認ができる仕組みが定着し、いざというときに活用できる取り組みとなる。川辺の仕組みがモデルとなり備中エリアで水害の可能性のある他地域にも発信して視察に訪れる。</p> <p>将来的に人口減少が見込まれる中で、地域の防災活動を通じて郷土愛が形成され、災害にも強い持続可能なまちづくりが期待される。</p>
<p>⑩翌年度以降の事業展開の予定</p>	<p>防災カフェ・川辺みらいミーティング・避難訓練を継続する。さらに、防災意識を高めあい、災害に向き合える地域づくりを継続する。安否確認の方法は、訓練の場面や、活動の場面で活用することで、いざ災害が起きた場面で活用できるように、逃げ遅れゼロを目指し活動の継続をする。来年度以降は、安否確認の方法として各町内会単位で SNS を使う、声掛けをするなど具体的な仕組みづくりするための 黄色いタスキを活用した防災訓練を避難訓練を継続しながら、安否確認のグッズを協力団体と行う。検証・開発を進める。</p> <p>また、備中管内や全県の防災意識向上の一助とするため、防災講演会等を通じ積極的に初年度の活動成果の普及・啓発を図る。</p>
<p>⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント</p>	<p>発災直後から、地域の女性（小学校 PTA のママ友）が中心となり、無料通信アプリ LINE で、正確な情報発信を継続している。99%被災し拠点となる分館や小学校が使用できず、避難所も開設されていないため支援物資や炊き出しなどの食事支援もなかった。その課題を小学校や行政の理解と協力を得ることができ、炊き出しボランティア、支援物資の受け入れをはじめた。食事を一緒に囲むことでバラバラになった住民が集まり、再会が明日の片付けの</p>

	<p>力となり、繋がり大切さを確認し続けることができた。</p> <p>そして、安心して生活ができるまち川辺地区にするために2019年度も川辺地区まちづくり推進協議会や地域の協力団体や行政と協働事業として、川辺住民と「川辺みらいミーティング」で被災後自分たちのできることを話し合い、被災ゴミを仮置きした場所を掃除する「クリーン作戦」を開催してきた。</p> <p>また、被災後無料通信アプリLINEグループ「川辺地区みんなの会」参加者500人強に対し、生活に密着した情報を共有してきたが、状況の変化に伴い必要な情報を把握するために、オンラインでのアンケートを実施し台風接近に伴う避難行動の把握や家の再建や現状の意識調査、みらいミーティングに対する意見抽出、発災後1年を迎えての意見といったテーマで合計5回行い、活動につなげている。</p> <p>第3回（令和2年1月19日開催）川辺みらいミーティングにおいては高齢者や障害を持つ方も会場に集まり避難の困難さや災害時の状況を共有し理解することができた。SNSなどスマートフォンの使用が苦手な方に向けては毎月1回「初心者のためのスマホ教室」を開催しLINEや防災アプリの使い方を講師の先生を中心に参加者同士教え合う勉強会の開催をしている。</p> <p>「防災について深く学び、広めていきたい」との意見も多くあり、住民の思いを実現し、安心なまちづくりを進めていくために、防災カフェを開催している。そして楽しくおしゃべりをしている中でも「逃げ遅れない、次の災害の備えに対する意識を持つ人」が多くなっていることがわかってきた。</p> <p>まちづくり協議会などの関係諸団体、学校、支援団体、行政などとも密に意見交換や連携ができています。この繋がりを活かしたまちづくり協議会は、町内会をまとめ協力することで、互いに信頼関係を築きコミュニティを十分に活用した活動ができる。また、まちづくり協議会には真備連合連絡会があり真備全体としても取り組みをすることができる。そして、倉敷に、岡山県全体に活動を広めることができる。</p>
<p>⑩想定される役割分担</p>	<p>【団体】 事業の企画運営と開催。また、SNSを使った広報活動など。 防災活動の普及啓発の発信</p> <p>【県民局】 備中地区では水害の起こりうる地域が多くある。県民局管内での防災減災に興味のある地域へつないでいただきたい。私たち「あるく」が地域に出向いて水害の怖さだけでなく、水害は自然災害の中で唯一早めの避難と備えができる災害であることを、川辺地区の事例を基に広く広めることができるように防災講演活動などを実施していきたい。防災講演会などの企画と防災ブックの普及をお願いしたい。</p> <p>また、各種活動を効果的に実施していくため、県の持つ防災情報の提供をお願いしたい。</p> <p>【その他】 【理由・期待できる相乗効果】 県内外に防災活動が広がり、広い範囲で防災意識の向上につながる</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 継続事業は「⑩事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄に昨年度までの採択事業の主な実績・成果も記載してください。
- 4 「⑩想定される役割分担」欄は、協働協定書等に基づき提案団体及び備中県民局、その他の役割を記入してください。

日程(変更)計画表

年月	事業内容	場所	規模等
毎月 1回 1月2 月は コロ ナの 為実 施せ ず	<p>1 防災カフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の食事、栄養 ・非常持ち出し品について ・防災グッズづくり (新聞紙でスリッパ、段ボールトイレづくり) ・避難所の生活を支えるグッズについて ・備蓄食品、ローリングストック (非常食試食会) ・マイタイムラインについて 等 <p>楽しくおしゃべりやお茶を飲みながら学ぶ。住民の要望に応えられるところから進めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ブック「防災おやこ手帳」の作成 	<p>あるくイベントスペース「てくてく」</p> <p>※以下てくてく</p>	<p>川辺地区全体にチラシ配布 (1500世帯)</p> <p>1回定員 15人程度 ×12回</p>
通年	<p>2 川辺みらいミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災後のまちづくりを地域の課題としてみんなで考える会を関係諸団体と協力して開催する。開催を通じて住民同士で話し合い防災意識を高めることができる ・安否確認のための仕組み、具体的な取り組みを考える (企画・作成・普及) ・実行委員会 (毎月1~2回開催) ・みらいミーティングの取組み結果をまとめた冊子作り 	川辺地区内	<p>1回定員 40人~80人×4回程度 (延べ320人)</p>
年 1回 程度	<p>3 避難訓練第5回川辺みらいミーティングにて危険個所の確認と防災マップの作製を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逃げ地図 (机上で避難体験) ・危険個所マップづくり <p>等実際に歩いて確認する取り組みをする等</p>	川辺地区内	<p>延べ人数 240人 チ ラ シ (1100世帯 配布)</p>
通年	<p>4 安否確認のルールづくり</p> <p>町内会単位での取り組みができるように関係諸団体とのルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既製の安否グッズを使って仕組みづくりや効果などを検証調査する ・安否グッズの検討をし、黄色いタスキを導入。川辺地区に住む全世帯に向けて配布する。 	川辺地区内	<p>1回定員 まちづくり 会員60地 区</p>
通年	<p>5 キッズ防災事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものを(お菓子やおもちゃ)使った防災を学ぶ「かえるキャラバン」 ・「あんどーりす」キャンプなどのアウトドアの知識を防災に取り入れる ・マップづくり ・避難スイッチの話 等 ・コロナの為、東京から講師をお招きすることができず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川辺小学校 ・川辺幼稚園 ・あるく屋外 	<p>約300人</p>

	・NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンさんの協力で、避難所用テントの展示、避難グッズについて、地震についてなど、ゲームを用いて楽しく学べる防災イベントを実施		
6	活動の発信事業 体験を風化させないための講座等の依頼に対応する。	県内外	

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。

令和2年度

活動報告

水害は「逃げるが勝ち！」

岡山県備中県民局提案型協働事業

川辺復興プロジェクトあるく

令和2年度（2020） 事業報告

被災後3年目を迎え、住み慣れた場所に戻ることができた人が増えて、住民の生活の状況が落ち着きを感じられるようになった。それに伴い、私たちの取り組みの内容も変化してきた。

被災によりコミュニティが一旦バラバラになってしまった。元の場所に住居を再建して戻ってきたとしても、以前のようなお付き合いが戻る人ばかりではない。それは、仮設住宅での暮らしで孤独感や不自由さを強いられてきたことが影響しているようである。

「やっと帰ってきました」「これでやっと参加できます」と初めてイベントに参加される方もあり、本来なら、元のコミュニティに戻れば埋められるはずのつながりは、まだまだ希薄であることを浮き彫りにしているように思う。私たちの活動は、埋められない時間や溝を少しでも浅くできるように、住民のつながりを結び直し、住民の小さな声に耳を傾けることを大切にしている。活動に参加したことをきっかけに生活に潤いが生まれ、生きがいつくりにつながっている。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大によって自粛を余儀なくされ、私たちの開催するイベントを拠り所としていた住民が思うように集うことができない状況になってしまった。

その中においても、近年の気候変動は、自然災害がどこで起きてもおかしくない状況であることは変わりなく、備える活動は継続する必要がある。

よって、イベント開催に向けての活動を停めるわけにはいかないので、企画会議についてはリモートを活用し準備を重ね、イベント開催当日もオンラインを活用しておこなった。

オンラインを併用したイベントにすることで、コロナ禍で明るみになった課題、防災研修には参加しにくい若い世代や会場には参加が難しい方がいることであった。会場での参加が難しい方が家に居ながら参加ができ、多様な環境の方や地区内外の方も参加することができ、参加者の広がりが見えた。

これらを、来年度の活動につなげられるよう工夫しながらできることを継続していきたいと考えている。

(2021年3月現在)

【1】 防災・減災をすすめる事業

防災を身近に感じ、楽しく会話をしたり、お茶を飲んだりしながら防災を我が事として考える場として「防災カフェ」を毎月開催した。参加者同士がともに防災に関する知識を身に付け、楽しく集うことで互いに顔の見える関係づくりの一端を担っている。

テーマは小規模な勉強会として、内容はできるだけ簡単にし、参加者にとって身近なことを取り入れた。

10月頃からはコロナ感染対策のため、3密を回避して開催したが、1月、2月は倉敷市内の感染者増加に伴い、開催を中止した。

① 防災カフェ（毎月1回）

開催日	内容	参加人数	スタッフ参加人数
5/31	オンLINEでさんぽ (生配信 約200回視聴) (香川大学 磯打千雅子)LINEで生配信	会場 8人	3人
6/23	簡易トイレをつくろう (生配信 約100回視聴) (香川大学 磯打千雅子)	会場 8人	3人
7/15	車中泊の極意 (生配信 約200回視聴) (香川大学 磯打千雅子)	会場 8人	5人
8/7	避難所について聞いてみよう！ (倉敷市防災危機管理室 渡邊直樹)	6人	4人
9/24	要配慮者の避難について (ぶどうの家 津田由起子)	8人	3人
10/13	安否確認グッズの使い方について (香川大学 磯打千雅子) 「黄色いタスキ」どこでも結べるので薄く「無事です」と入れよう	3人	4人
11/24	地震・安否グッズを使った避難訓練について (香川大学 磯打千雅子)	5人	2人
12/11	クロスロードゲームで災害時の動きを考えよう (ピースウィンズ ジャパン富樫、中村)	6人	2人
1月 2月	コロナ感染拡大により中止		
3/23	LINEを使ってみよう 災害後スマートフォンに移行した人が多く、情報収集や災害時の連絡方法として活用できるようにするための事業	5人	4人


○ 防災ブック（防災おやこ手帳の作成）

被災後行った「パパママアンケート」の内容や防災カフェで出した意見などをまとめたものを制作した。



【オン で!さんぽ】

～ちょっと試してみたい防災対策～

 中継を見ながら疑似体験?!気軽に試したくなるような防災対策お伝えします!



日頃の散歩で
町を知るヒントが
あるよ♪



たのしく簡単!

アウトドアで

美味しい防災食!

車でキャンプ♡

(車中泊)

なに準備する!?

非常持ち出し品

こんなのあったら

便利!(紹介するよ)



【参加方法】



- ① 9時 LINE グループ「川辺地区みんなの会」を開く。
- ② URL(リンク)をタッチ!
- ③ 生配信の様子を見ることができる。
- ④ お家から参加して、感想や質問を LINE でコメントしてください。

☆LINE グループ「川辺地区みんなの会」に参加されていない方はご連絡ください。

《連絡・お問い合わせ先》

080-5752-0111

(午前9時から13時まで)

川辺復興プロジェクトあるく

日にち: 5月31日(日) 9時から配信スタート!

9:00~あるくより: 出発前の一言と本日のスケジュール

9:10~川辺小より: 小学校の取り組み一部紹介

9:40~源福寺に向けて散歩しながら危険箇所の確認の仕方をお伝えします

10:00~源福寺より: 川辺の歴史に触れてみよう!

水害の歴史や古い地図から分かること

10:20~あるくに向けて散歩

あるくより: あるお家の持ち出し袋チェック

アウトドア防災食

車中泊のい・ろ・は

12:00頃終了予定です

※生中継の為、スケジュールや内容が一部変更になる場合があります(時間も目安です)

主催: 川辺復興プロジェクトあるく

防災カフェ(防災遠足)

監修: 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連

携推進機構 地域強靱化研究センター

特任准教授 磯打 千雅子

《令和2年度岡山備中県民局提案型協働事業》

5/31 オンラインさんぽ

防災カフェとして、防災さんぽを予定していたが、コロナ感染拡大により開催内容をオンラインで「川辺地区みんなの会」のLINEに生配信することに変更する。

雨の中、実際にまち歩きをして、水害の場合の危険が日常の生活にあることを確認した。初めての試みである為音声とうまく伝わらず残念な面もあったが、コロナ禍でも活動をやめることなく開催できたことが今後の計画にも参考になった。



増水した道路をあるく場合、道端の電柱を目印にすると「このように傾斜があり溝がわからなくなり段差があると危険」「災害時子どもと一緒に道路の中ほどにして」と、危険個所を説明してもらって歩いた。

磯打先生のメスティン調理のすすめ「無洗米と缶詰、乾燥野菜など入れて、固形燃料で簡単調理」アウトドア避難にバッチリ。



初めての試みで、NHKの取材も受けながらですが、楽しみながら開催できた。
「ごはんまだかな・・・」



防災カフェの様子



7/15
車中泊の極意



6/23
簡易トイレをつくろう

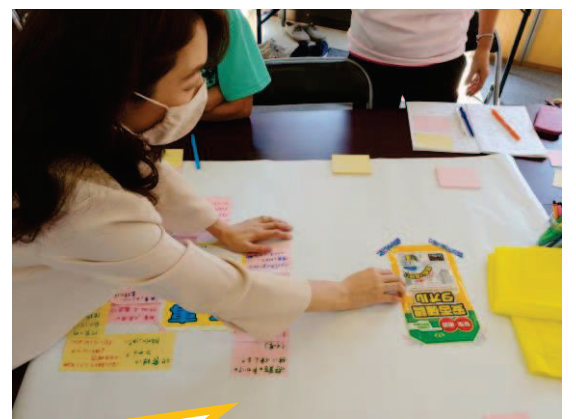


11/24
地震・安否グッズを使った避難訓練について



10/13
安否グッズ検討して避難を考える

12/11
クロスロードゲーム(二者択一)で防災を考える



数点市販の安否グッズを取り寄せ、手に取りやすい、目的にあうものを話し合っ
て「黄色いタスキ」に決定した。地区の主要な団体とも協力で年度内に配布予定。

3/23 防災カフェ「LINEを使ってみよう！」

- (開催内容)
- 1, 友達追加をしてみよう
 - 2, メッセージや写真を送ってみる
 - 3, メッセージや写真を「送信取り消し」してみよう
 - 4, 絵文字やスタンプを使ってみよう

(参加動機)

「来年度町内会の会長をするので、LINEを使えるようにしたい」

「スマホ教室に行ってもLINEの事は教えてもらえないし、なかなかわからないことを聞ける雰囲気でもないから・・・」

「遠くにいる孫とLINEでメッセージや写真を交換したい」

「家族に使い方を質問すると、操作してくれて自分でやらないからできるようにならない」

(開催の経緯と展望)

西日本豪雨災害による被災後、固定電話を使えない状態になり、町内会の繋がりや連絡網も携帯電話に変更し、その上、多くの人がガラケーの携帯電話をスマートフォンに移行している。しかし、便利な情報ツールも使いこなすことができないという状況にある。

よって、参加者が、できるだけ顔の見える関係の中で「失敗しても大丈夫」「とにかく触って慣れよう」と思えるように継続していきたい。

そして、いざというときの情報をLINEで発信して、早めの非難行動に移れるような仕組みづくりにつなげられるようにしたい。

(感想)

「知りたいことが何個か理解できて、収穫！と思えた。特にメッセージを取り消しする方法が理解でき安心して使ってみよう！と思っている」

「やはり、失敗を恐れず触ってみないと慣れないね」

「また、よろしくお祈りします！」

と、ほぼマンツーマンになるくらい的人数でできたので和気あいあいに楽しく活動できた。



防災おやこ手帳の作成と配布の準備作業

被災後、真備町内の子どもを持つ親世代を対象にLINEを使ったアンケートを行い、「水害に遭っていない人に被災経験を基に伝えたいこと」を尋ねたところ「子どもたちをきちんと守って欲しい」「早めに避難して欲しい」といった強い想いが浮かび上がった。

被災経験やその時の想いや反省などを形にして、未災地の人たちに伝えたい一心で「マイ避難先」を考えよう！、「避難スイッチ」を決めておこう！といった避難のヒントなどを盛り込んだ「防災おやこ手帳」を作成した。

被災した自分たちの経験に基づいて実践してきたイベントや防災の仕組みづくりを伝えることは、災害を自分のこととして考えるきっかけとなり、それぞれの防災意識の向上につながる事が期待されている。

そして、この「防災おやこ手帳」を通して、講演の依頼があり意欲的に取り組んでおり、「おやこ手帳」と題しているがわかりやすく好評であり年代に関係なく地域での防災の取り組みや講演会にも依頼が増えているので、今後も内容を検討していきたいと考えている。

「防災おやこ手帳」については、未災地に経験を伝え、家族で「避難先の確認」「避難スイッチのタイミング」「難準備品」などについて話し合うきっかけにしてもらいたいと考えて作成した。必要とされる方に郵送し、県内外の様々な地域の防災研修や子どもたちへの防災教育などで教材として活用していただいている。ポイントを押さえ、ページ数が少ないため手に取りやすいようで、問い合わせや申し込みも多くあった。今後の防災減災に役立つことを期待している。

「防災おやこ手帳を手にとっていただいた皆様に思いを伝えられるようにあいさつ文を挟み込み郵送に備える作業を定期的に行っている。

岡山県内の公民館や、学校の先生などから研修や学習の場面で使いたいと問い合わせがあり送っている。

また、メディアにも取り上げられたことで、県外からも問い合わせや申し込みがある。



防災おやこ手帳を手にとってください
ありがとうございます

この防災手帳は、平成30年7月西日本豪雨災害の経験をもちに製作いたしました。子どもをもつ被災した保護者の多くが伝えたいことは「水害で命を落とさないで！早めに避難して、子どもに怖い思いをさせないで！」です。この防災おやこ手帳があなたの家族の命を守るためのヒントになるよう願っています。

～防災おやこ手帳の感想をお寄せください～

【二次元コード】
Google フォームから感想を送るー
【郵送】〒710-1313
岡山県倉敷市真備町川辺725-15
川辺復興プロジェクトあるく宛て
【メール】
aruku.2018.10.18@gmail.com

～「川辺復興プロジェクトあるく」を応援してください～
私たちの活動は、みなさんからの寄付と助成金で運営しています。川辺地区・真備町のみならずが災害から守る役割を担って暮らさるよう、また、全国のみなさんの防災を伝えるきっかけとなる活動も継続できるように、応援をよろしくお願いいたします。

連絡先：吉備倉庫倉庫 川辺支店 電話 0159563
川辺復興プロジェクトあるく 代表 橋本倫美



②川辺みらいミーティング

川辺みらいミーティングは、「目指そう！逃げ遅れ“ゼロ”の川辺地区」をスローガンに掲げ、被災後のまちづくりを住民同士が自分のできることを語り合い、助け合いながら地域の再生にどうつなげていくかを活動にする場として開催している。

令和2年度は4回実施し、避難のタイミングについて参加者で考えたり、分散避難に関するアンケートを行った結果の報告会をコロナ禍であることを考慮して会場とリモートを組み合わせて開催することができた。

「防災まち歩き」では、香川大学 磯打千雅子先生と香川大学の学生さんがファシリテーターとなって、大人や子どもがまち歩きとマップ作りを行うことができた。

そして、第6回では「小学生&大人合同 防災まち歩き報告会」コロナ感染拡大禍によって子どもたちは事前に録画してもらい、当日はDVD映像での報告披露とした。大人も会場は発表者とスタッフの少人数で開催し、YouTubeで生配信としての開催とした。また、子どもたちの映像を配信することから、事前に予約された限られたが視聴できるようにするなど対策を考慮して行った。

開催日	内容	参加人数
7/19	第4回「考えよう！マイ避難先 アンケート結果報告会」	会場参加人数 42人 YouTube 視聴数 約300回以上
11/21	第4回「目指せ！逃げ遅れゼロの川辺地区」 防災まち歩き 講師、ファシリテーター：香川大学 磯打千雅子 香川大学学生 11/2 川辺小学校5年生 大人に先立ち開催	45人
1/16	第6回「防災まち歩き。マップ作り 小学校5年生（DVD参加） と 大人合同発表会」 講師、ファシリテーター：香川大学 磯打千雅子 香川大学学生	会場参加人数 10人 ZOOM参加 9人 YouTube 視聴数 約200回以上

危険箇所の確認、マップづくり

第5回川辺みらいミーティングの実施結果

楽しく学ぶ“防災まち歩き”報告

2020年11月21日開催(@真備町川辺地区)



まち歩きの様子(11月21日)

川辺みらいミーティングでは、今後も続けて地域の防災研修や地域の皆さんへの情報提供などに取り組みます。

【第1部】13:30～15:00

川辺のまちを散策&
危険箇所チェックをしました

参加総勢約40人程度が7つのグループに分かれて散策しました。川辺のことを学ばれた香川大学の学生さんをリーダーにして危険場所の説明を受けながらを写真に収めて情報を集めました。(LINE利用)

【第2部】15:10～16:30

集めた情報をみんなで共有
防災まち歩きマップを作りました

学生さんによる防災クイズの後は、まち歩きで得られた写真情報をもとに地域の防災マップを作りました。今回は水害だけではなく地震での危険場所も含め、参加者は自宅周辺の避難注意場所を学びました。

【川辺小学校体育館で防災マップ作り】



【東西南北エリアに分けて作ったマップ】



主催：川辺みらいミーティング実行委員会

共催：川辺地区まちづくり推進協議会、川辺復興プロジェクトあるく、ピースウィンズ・ジャパン、国交省・高梁川小田川緊急治水対策河川事務所、特定非営利活動法人 みんなの集落研究所、後援：倉敷市 防災危機管理室

(成果) 「まち歩き」を、日々の生活の中での散歩や健康づくりのウォーキングなどに活かすことができる。

(参加者の声) 「自分の住まいの周辺を知ること、いざというときの身の安全を確保するヒントになる」など、参加者の声もあった。

(展望)

今後もこのような活動を、継続していきたい。

川辺分館からオンラインで

(2021年1月16日開催)

《川辺小学校5年生(DVD出演) 川辺住民 合同発表報告会》



《令和2年度 岡山県備中県民局提案型協働事業》

川辺みらいミーティングは川辺住民の有志と川辺小学校をはじめとする関係諸団体の皆さんと一緒に「逃げ遅れゼロの川辺地区」を目指して話し合いや活動をしています。今回は、香川大学 創造工学部 防災・危機管理コースの磯打先生と学生さんが講師となり、11/2川辺小学校5年生の皆さん、11/21川辺地区の皆さんで防災まち歩きをしました。

小学生の皆さんと大人がまち歩きのマップを基にした成果を発表する会を、コロナ感染拡大によってオンラインのみでの報告会としました。会場では最少人数での開催として、5年生はDVDでの報告、学生さんもオンラインでの参加でした。

【開催内容】

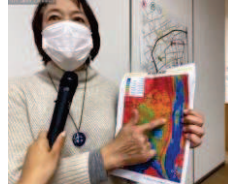
- ・「すごいぞ川辺のご先祖様」紙芝居
 - ・大人の成果発表(東西南北の4コース)各代表の方
 - ・子どもたちの成果発表 (DVDの映像にて)
 - ・香川大学学生さんから「川辺のクイズ」
 - ・磯打千雅子先生から総評
 - ・川辺小学校本多卓郎校長先生から総評
- 約1時間30分の取り組みでした。
会場での開催スタッフ10人(発表者4人含む)
Zoomでの参加9人(学生さん3人含む)
YouTube視聴(23日現在117回)



この防災まち歩きは、災害を経験し復興していく過程や日常を記録することにつながり、子どもと大人が同じ目線で見られたこと、コロナ禍においても工夫してこのような成果発表ができたこと素晴らしい！とお話いただきました。
(磯打千雅子先生より)



子どもたちは、災害後多くの皆さんから支援をいただき感謝の気持ちを形にしたいと頑張ってきました。今回の発表も地域の皆様に伝いたい！と何度もマップを作り替え発表の練習を繰り返しDVDの撮影に臨みました。そして、これからも毎年5年生が学びつなぐことで災害の歴史や気づきを未来の人や未災地に伝えていくことができると思っています。
(川辺小学校校長本多卓郎先生より)



準備に集まれず、なかなか打ち合わせができない中、それぞれのコースの発表を受けていただいて感謝しています。それぞれの発表者の皆さんは、再度歩いたり資料を集めたり発表の内容を考えていただきました。本当にお疲れさまでした。まち歩きをしたコースの紹介や神楽土手の歴史は勿論のこと、危険箇所や災害時に役立つものやチェックポイント「水害の歴史を忘れないこと」「普段から、身の回りの危険箇所をチェックしておく」を丁寧に説明していただきました。皆さんも！たまにはご自宅の近くを歩いてみましょう！

(成果)

コロナ禍においても、活動が制限される中、子どもたちは事前に発表をDVDに収録しての参加でオンラインでの報告会というように感染対策を取りながら工夫して開催することができた。

子どもたちの発表には、新鮮な気づきをわかりやすく、そしてマスク装着でも発表者が手を挙げるなど工夫されていた。

大人は災害を経験したことを踏まえて、自分事とした防災の観点を伝える内容となった。

(展望)

このような「まち歩き、マップ作り、発表会」を毎年開催できる取り組みを継続することで地域を知り防災の意識向上を目指していきたい。

③ 安否確認のルールづくり

「目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区」を目指した事業。

(取組内容)

今年度は辺地区全戸に配布することを目標に、色々な団体と協力して活動している。まずは、川辺地区まちづくり推進協議会を通じて町内会の代表に配布してもらうための準備として、事業に賛同する各種団体と、あるくスタッフで、黄色いタスキとチラシを袋に詰める作業を行った。

(課題)

町内会がない所や、アパートなどにどう届けるか。取り組みを広げられるかが課題である。

(展望)

来年度、この「黄色いタスキ」を使って防災訓練をする予定である。

いざというときに、「黄色いタスキ」が掲げていないところに声掛けをするきっかけにしてほしい。



黄色いタスキ大作戦配布チラシ

令和2年度岡山県備中県民局提案型協働事業

目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区

お隣さんは
無事かな？

黄色いタスキ大作戦



平成30年7月西日本豪雨の際に、「お隣さんが無事なのか心配だった。」「避難したかどうかかわらず、声掛けに時間がかかった。」などの声をたくさん聞きました。そこで、「我が家は、避難しました！無事です！」と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

川辺地区の『黄色いタスキ』ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに結んで保管。
3. 結びやすく、目立つ色。ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ！



※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ

※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ



ドアノブがある場合はドアノブに、
ない場合は、玄関付近の目立つ
ところに結びつける。

緊急時タスキが玄関先にお宅に声掛けをお願いします。

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。

警戒レベル4、もしくは地震の余震がおさまったら迷わず「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、声掛けをお願いします。

川辺地区の住民みんなで取り組もう！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひご参加ください。

まちづくり推進協議会・環境衛生協議会・老人クラブ・愛育委員会・民生委員・児童委員 地区社会福祉協議会・栄養改善協議会・川辺小学校 PTA・川辺幼稚園 PTA・川辺分館管理組合 倉敷消防団真備第1分団第3部（川辺消防団）・婦人会・川辺みらいミーティング実行委員会

監修：香川大学 磯打千雅子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111

④キッズ防災事業

開催日 10/31	内容 ハロウィンだよ！楽しく防災やってみよう！ 「今回のテーマは地震だよ！」 講師：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン	参加人数 29人	スタッフ 参加人数 6人
--------------	---	----------	--------------------

(開催理由)

豪雨災害の中で子どもたちが「早く逃げよう」と親や家族の避難スイッチを押したことで、早めの非難行動につながったケースが多くみられた。このように、子どもたちの学びが家族・地域の防災意識の向上につながると考えられることから、年に2回程度、子どもたちに対して「楽しさ」を盛り込んだイベントを実施している。



「問題です」
「ここは震度〇が
起こるといわれて
いるでしょう？」

それぞれのグルー
プに分かれて話し
合っている様子。



開催日 11/2	内容 川辺小学校5年生 防災まち歩きとマップづくり 講師：香川大学 磯打千雅子 香川大学 学生（ファシリテーター）	約35人
-------------	--	------

川辺小学生が授業の一環で自分の住む地域の歴史や、危険箇所を見て歩き、防災マップを作る活動を行った。

子どもたちにとっては自分の町を知る良い機会となった。

⑤ 「防災おやこ手帳」の作成

西日本豪雨の被災当時の、実際の被災体験や子育て世代のお父さん・お母さんを対象に行ったアンケートに寄せられた意見や経験内容を載せた冊子にした。

内容には、被災当時のエピソードに加え、マイ避難先、避難のタイミング、避難準備品は何？とページ数を少なくして家族で話し合うきっかけになるように身近に取りやすいものを制作した。（約1万部発行）

<p>10月下旬 順次</p>	<p>「防災おやこ手帳」の配布 真備地区の、保育園、幼稚園、小学校を通じて子どものいる全世帯に配布し避難スイッチなどについて家族で話し合う機会となった。</p>
<p>12/9 約20人</p>	<p>「防災おやこ手帳」の中学生での活用 真備東中学校の総合学習の時間で「防災おやこ手帳」を活用した防災学習をした。 学習の一環として、中学生が地域のスーパーの前で手帳の内容を説明しながら来店者に手渡すという防災啓発活動を実施した。</p>



⑥ 防災減災に向けての啓発活動



(成果)

防災おやこ手帳を手にとっていただいた皆さんからの質問に答えたり、手帳の使い方などを説明し手渡しし、帰宅後家族で防災の事を考える機会にしてもらえよう思いを伝えることができた。

コロナ禍においても、工夫しての開催に参加できたことと共に多くの来場者に関心の高さを感じることができた。

(展望)

今後も機会があれば、他地区の多くの皆さんに私たちの体験や防災の大切さを伝え、防災減災を伝えていきたい。



← 防災おやこ手帳の配布をしている様子。



防災士の会の「笑顔プロジェクト」をはじめ「国土交通省小田川河川事務所」「ピースウィンズ・ジャパン」の皆さんとブースを分けて展示。



資料1) 第4回川辺みらいミーティング「考えよう！マイ避難先 アンケート

「災害時避難についてのアンケートご協力のお願い」

川辺地区の皆様、平成30年7月豪雨から2年目の夏を迎えようとしております。河川や堤防の復旧工事も完成にはあと3年かかる予定ですが、なかなか収束の見えないコロナに私たちの生活も大きく影響を受けています。しかし、防災への取り組みは少しずつでも前に進んで活動していきたく皆様のご協力をお願いいたします。

川辺みらいミーティング実行委員会からのご挨拶とお願い

5月17日に予定していた第4回川辺みらいミーティングは大変残念ながら延期とさせていただきます。今回アンケートという形でみなさまのお考えを確認させていただき、その内容を踏まえて延期となった第4回みらいミーティングを、より充実したものにしていきたいと考えております。

皆様のご協力をいただき、少しずつでも災害に強い真備町に近づいていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

第4回川辺みらいミーティング実行委員長 松本 竜己

川辺地区まちづくり推進協議会からのご挨拶とお願い

あの時誰もあそこまで水がくるとは予想していませんでした。昨年は台風19号が各地に甚大な被害をもたらした。最近の異常気象は何処でいつ起きてもおかしくない状況にあります。だからこそ、日頃から災害に備えて準備しておく必要があることを私たちは学びました。

まちづくりが昨年から取り組んでいる「町内会どうなっている会」の話し合いの中でも防災に備える必要があるとの声が多く寄せられました。

一人ひとりの防災意識を高めるための「みらいミーティング」ですが、コロナの影響で延期することになりました。

皆様にアンケートにお答えいただくことにより今後のまちづくりの防災を考えるうえでの参考とさせていただきます。そしてこれが災害に強いまちづくりに繋がっていくことを期待しています。ご協力よろしくお願いいたします。

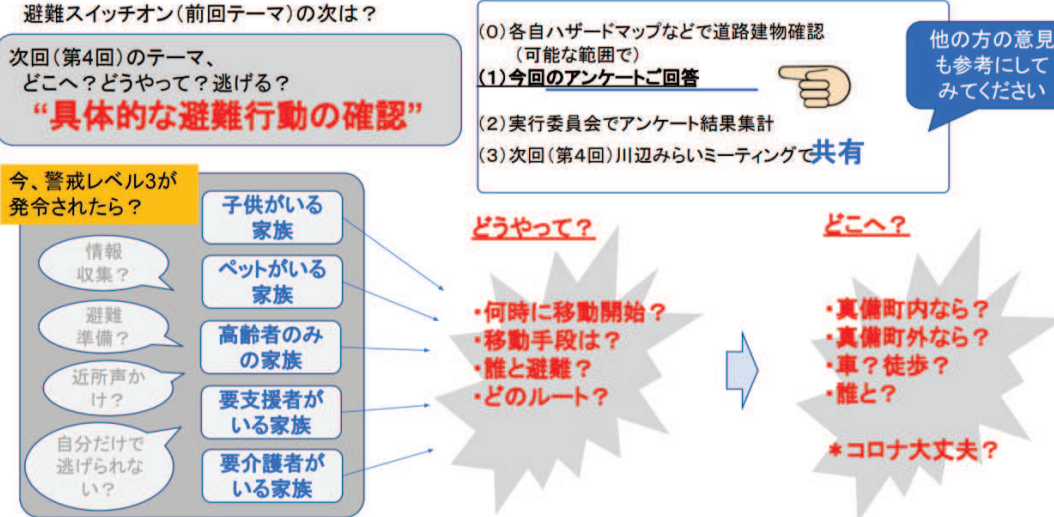
アンケート記入の際の注意点

- ・回答用紙は、同封の返信用封筒をご使用頂き、**令和2年5月29日(金)まで**にご投函下さい。
- ・質問には選択項目の中から1つ選択するものと、複数選択が可能なものがあります。質問文に示した回答方法に従ってご回答ください。
- ・ご回答の際は、直接、回答用紙のあてはまるものに「印」をつけてください。

こちらからもご回答いただけます。



次回(第4回)川辺みらいミーティングのテーマ



回答用紙(1/2)

アンケートご回答お願い(どこへ逃げる？、どうやって逃げる？)

1. ご回答いただく方ご本人について

1) あなたの年代は？
10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

2) あなたを含めて同居家族は何人ですか？
1人 2人 3-4人 5人以上 その他[]

3) 同居家族(あなたを含め)の中に介護・解除が必要な方はいますか。(複数選択可)
いいえ 乳幼児あり 介護・介助が必要な家族がいる

4) ペットの有無は？(複数選択可能)
ペット無し ペット有(小動物) ペット有(大型犬など)

2. 西日本豪雨災害当時のことについてお聞きします。

1) 平成30年7月7日朝8時の時点であなたはどこにいましたか？
自宅内 指定避難所(岡田小学校)
指定避難所(園小学校) 指定避難所(その他)
 5親戚・知人宅 6浸水域外の高台(例:吉備路クリーンセンターなど)
 7その他[]

2) 次に避難するとしたら、同じ行動をとりますか？
 1同じ場所に避難する 2別の場所に避難する 3自宅に留まる
 4その他[]

2)-1 その理由について教えてください。
 []

3. ここからは、あたまの体操としてお答えください。

もし、今警戒レベル3(避難準備・高齢者避難開始情報)が発表されたらとします。どこに避難しますか？例を参考に教えてください。(コロナの影響もお答えください。)

設問1: **車(車中泊含め)で真備町内に避難**するとしたらどこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。(例:川辺小、岡田小、吉備路クリーンセンター、真備総合公園 等)

設問2: **車(車中泊含め)で真備町外に避難**するとしたらどこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。(例:総社方面の〇〇、玉島方面の△△ 等)

設問3: **徒歩で避難**するしかない場合、どこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。(例:とんぼ公園、土手 等)

設問4: いま何らかの理由で**自分一人では避難**できない場合、誰とどこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。(例:家族ととんぼ公園、両親と土手 等)

大雨の季節を迎える前に
川辺かぞくミーティング



いまこそ安全な避難について コロナが心配…考えてみませんか？

もうすぐ大雨の季節がやってきます。川辺みらいミーティング実行委員会では、みんなで集まってお会いできないこの機会に、ぜひご家庭で避難について話し合っているといただきたいと考えました。

そこで香川大学の磯打さんからアドバイスをうけて、避難のポイントについて整理してみました！ぜひあたまの体操してみてくださいね。

第4回 川辺みらいミーティング実行委員長 松本竜己

これポイント！

安全な避難とは、文字通り「難を避けること」と考えてみましょう。

コロナウイルスの感染が心配な今、避難所はまさに「三密」ですし行くのは躊躇します。だからといって、コロナが心配で避難しないということになれば本末転倒です。

でもこう考えてみてはどうでしょう。

避難とは、文字通り「災難を避ける」ことを意味するよう
です(デジタル大辞泉)。避難所に行くことが安全な避難では
ないと考えてみると、選択肢が広がりそうですね。



これポイント！

色々な場面や可能性を想定して、「マイ避難先」を考えてみましょう。

避難するとしたら真備町内？町外？車は使える？
総社方面なら？倉敷や玉島方面なら？

あ、車中泊なら？

指定避難所以外で避難できそうな
場所を複数考えてみませんか？



「難を避ける」「三密を避ける」ために自分自身の「マイ避難所」を
考えておくだけでも安心。ぜひご家族で話し合ってみてください。

資料3) 防災啓発チラシ

令和2年度の開始時には、コロナ感染拡大を懸念して活動ができない状態であった。

しかし、出水期を前に伝えなければならないことをまとめて、啓発チラシとして配布した。

保存版 目指そう！
逃げ遅れ“ゼロ”の川辺地区

アンケート結果
速報もせてます

ご近所同士、知り合い同士、
声を掛け合って 避難しよう！

警戒レベル 3 高齢者など、避難に時間がかかる人は
避難開始！

※令和2年5月実施アンケート結果 西日本豪雨では、「当時自宅に留まった」と回答した
565名の回答より 199名(4割)の内、60歳以上が131名(7割)でした

警戒レベル 4 危険な場所から**全員避難！**
場所によっては冠水が始まっているかも！？
気を付けて避難しよう！

次に避難する場合は、「当時と同じ場所に避難する」(214名・4割)、「別の場所に避難する」(247名・4割)が同程度。当時「自宅に留まった」方199名の内、次は別の場所に避難すると125名(6割)が回答されています。

**大切な情報を
手に入れよう！**
テレビ・ラジオ・インターネットなどで
危険を察知
※詳しくは裏面へ

「逃げるよ！」と
声を掛けてから避難！
あなたの一声が避難のきっかけに

MY避難先を考えておこう！
コロナ感染より、命を最優先して
いざという時にどこへ逃げるのか
ご近所さんとも話をしてみましょう。

ハザードマップを確認！
川辺地区のほとんどが
5メートル以上の浸水予想！
自宅の垂直避難では危険！？

みなさんのご回答の内、これから取り組みたい項目の上位は
・避難スイッチのタイミングを決めたい(328名・6割)
・町内会やご近所での災害時の声かけや助け合い(317名・6割)でした。
これから川辺地区のみんなで取り組んでいきましょう！

川辺地区まちづくり推進協議会・川辺みらいミーティング実行委員会・川辺復興プロジェクトあるく
《令和2年度岡山備中県民局提案型協働事業》

警戒レベル

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5 <small>命を守るための最善の行動をとります</small>	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとります。	災害発生情報 ※2 ※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令(市町村が発令)
警戒レベル 4 <small>危険な場所から全員避難</small>	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(緊急) ※3 ※3 地域の状況に応じて緊急的または重ねて発令を促す場合に発令(市町村が発令)
警戒レベル 3 <small>危険な場所から高齢者等は避難</small>	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始(市町村が発令)
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等(気象庁が発令)
警戒レベル 1	災害への心構えを高めます。	早期注意情報(気象庁が発令)

川辺地区は、倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップによるとその大半が**大規模に浸水が想定されるエリア**です。

早めの備えで安全に避難！
いざという時に慌てないように、避難先・持ち出し品・避難方法を考えておきましょう！

※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することがあります。

防災情報

※情報は数か所から得られるように準備しておきましょう。

川の水位情報(スマホ・インターネット)
右のQRコードで小田川及び支流の水位情報・河川のライブカメラの確認できます

ラジオ
FMラジオ
緊急告知FMラジ「こくっち」

テレビ
NHK(dボタン)

避難に関する情報などを大音量で伝える、緊急告知FMラジオ「こくっち」
購入できる場所：まきび公園にある「たけのこ茶屋」
営業時間 10:00～16:00 定休日 毎週月曜日、お盆、年末年始
◇緊急告知FMラジオ「こくっち」…1台 8,800円(税込)
※たけのこ茶屋で販売する「こくっち」は倉敷市用のみです。
※お買い求めの前にご利用になる部屋の受信状況をお手持ちのラジオでお確かめください。

防災についての相談窓口：川辺みらいミーティング実行委員会事務局
080-5752-0111 (あるく携帯電話)

令和2年度啓発活動報告（川辺復興プロジェクトあるく）

1. 講演活動

日にち	場所	イベント名	講演テーマ	人数(約)	主催
2020.7.3(金)	香川大学 会場・オンライン併用	香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー「今、私に必要な「避難」とは？」	真備町川辺地区における分散避難の取り組み	会場 40名 オンライン 200名	香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
2020.8.8 (土)	東京都渋谷区 (ZOOM)	渋谷防災キャラバン	台風と豪雨災害 「被災者の声を聞こう」	YouTube 配信	渋谷区
2020.8.26	ZOOM	地縁を活かしたコミュニティグループに関するオンライン勉強会 第1回「地域防災」	LINEを活かしたコミュニティづくり～平成30年西日本豪雨をきっかけとして生まれた新しい地縁～	45名	地縁を活かしたCG研究会
2020.9.1 (火)	滋賀県 (ZOOM)	第50回 滋賀県防災カフェ	ウィズ・コロナ時代の大雨避難	オンライン 30名 NHK ラジオ (全国)	滋賀県危機管理センター
2020.9.29 (火)	里庄町	災害から子どもを守る～母親目線の防災～	左に同じ	30名	子育て支援ボランティア「フレンズ」
2020.10.23	岡山市立高島公民館	さんかくウィーク2020公民館行事「いまとこれから」	コロナ禍の今女性の視点で防災を考えよう	17名	岡山市立高島公民館
2020.11.07	鹿児島県 (ZOOM)	防災ママカフェ	子どもを連れの避難行動について（教材用動画収録）	8名	国土交通省
2020.11.15	玉野市滝公民館	滝地区防災研修会	西日本豪雨災害で学んだこと～女性目線の地縁と復興～	40名	滝地区
2021.1.24	岡山市立曾根小学校	玉島市滝地区防災研修会	西日本豪雨災害で学んだこと～女性目線の地縁と復興～	60名	曾根学区 支え合い 防災体制 づくり 推進協議会
2021.2.7	ライフパーク倉敷	岡山県子ども会連合会 ジュニア・リーダー研修会	西日本豪雨災害から学ぶ～防災おやこ手帳の活用～	25名	岡山県子ども会連合会
2021.2.27	ZOOM	関西学生防災サミット	コロナ禍の防災活動～西日本豪雨災害の経験を活かして～	15名	大阪防災プロジェクト

3. 書籍・冊子・広報誌

- ・西日本豪雨 一步、また一步 災害から復興へ 山陽新聞発行(2020年6月)
- ・届け!この思い 西日本豪雨から2年 災害とコミュニティ FM ラジオ エフエムくらしき 吉備人出版(2020年11月)
- ・残す。西日本豪雨災害 私たちは真備に何を残そうとしたのか:西日本豪雨災害「残す」編集チーム(2021年2月)
- ・岡山県広報誌「晴れの国おかやま 2021.2」平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興に向けて
- ・内閣府 広報誌「ぼうさい」第100号 防災リーダーと地域の輪

4. 防災啓発活動

2021.2.23(火)防災展 アリオ倉敷 主催:一般社団法人おかやま笑顔プロジェクト 防災おやこ手帳の配布(160冊配布)・川辺地区の被災状況写真の展示

5. 取材・番組出演

- 4.14(火)山陽新聞(20年度提案型協働事業 採択)
- 5.13(水)テレビせとうち ななspa(豪雨災害地コロナで“つながり”は~川辺みらいミーティングの取り組み~)
- 5.20(水)NHK もぎたて特集(川辺みらいミーティングの取り組み・MY避難先について)
- 5.22(金)NHK 全国 きょう一日(MY避難先について)
- 6.1(月)山陽新聞・さんデジ(3密さけオンラインで防災啓発 真備の住民グループ動画で伝達)
- 6.2(火)KCT ニュース(オンLINEさんぼについて)
- 6.2(火)NHK もぎたて(SIP防災訓練について)
- 6.19(金)RSK山陽放送イブニングニュース(分散避難についての取り組み)
- 6.21(日)山陽新聞 西日本豪雨一步、また一步 災害から復興へ(住民のつながり 心の支え)
- 6.27(土)レディオモモ Raccoの雑音倶楽部(災害から2年を迎えて)
- 6.28(日)NHK総合/全国 再放送:7.4(土) NHK総合/中国ブロック 7.3(金)NHK総合/全国 明日につなげよう「逃げ遅れゼロの町へ~西日本豪雨2年 倉敷市真備町~」
- 6.29(月)山陽新聞(「マイ避難先」想定を~真備の住民グループ訴え災害応じ複数~)川辺みらいミーティング実行委員
- 7.5(日)朝日新聞「避難所以外も「マイ避難先」~今最適な場所LINEで共有」
- 7.6(月)NHK「熊本・支援物資について」
- 7.6(月)RNC「豪雨から2年きょうの倉敷市真備町は」熊本・支援物資について
- 7.7(火)倉敷ケーブルテレビ「熊本・支援物資について」
- 7.7(火)読売新聞「地域で集まり防災力培う~課題取り組み地道に」
- 7.7(火)RNC特集「地域で防災「マイ避難先」」
- 7.8(水)産経新聞「被災者つなぎ居場所づくりを~倉敷・川辺地区の住民らSNS駆使」
- 7.9(木)読売新聞「熊本・支援物資について」
- 7.9(木)山陽新聞「豪雨支援「私たちの番」~メッセージ添え届ける~」
- 7.30(木)朝日新聞「西日本豪雨で浸水 真備・川辺住民アンケート」

- 9.1(水) NHK ラジオ総合「NHK 防災ラジオ特集 ウィズ・コロナ時代の大雨避難」
- 10.7(水) 山陽新聞「避難先は「3か所以上」真備の住民グループ代表豪雨災害基に講演 里庄」
- 10.25(日) 山陽新聞「防災おやこ手帳作成～西日本豪雨被災経験基命守るヒント掲載～」
- 11.1(日) 山陽新聞子ども新聞「防災おやこ手帳作成～西日本豪雨被災経験基命守るヒント掲載～」
- 11.7(火) FM くらしき「防災おやこ手帳について」
- 11.2(月) oni ビジョン「高島公民館防災講演会について」
- 11.10(火) 倉敷ケーブルテレビ「防災おやこ手帳について」
- 11.26(木) 毎日新聞・毎日新聞 WEB 版・yahoo ニュース「西日本豪雨で被災、岡山の住民グループら防災冊子制作「災害弱者」に焦点」
- 11.27(金) RSK ラジオあもーれ! マツタリーノ、いきいき備中ほっと情報「防災おやこ手帳について」
- 11.29(日)山陽新聞 西日本豪雨 折々の情景「防災のまちづくり・川辺みらいミーティングまち歩きの様子」
- 12.1(火) ほとせなニュース (WEB ニュース)「川辺みらいミーティング「防災まち歩きについて」
- 1.23(火) 倉敷ケーブルテレビ「防災展について」「黄色いタスキ大作戦について」
- 1.28(木) テレビせとうち ななspa「あるくの防災活動について (防災まち歩き報告会・防災おやこ手帳・黄色いタスキなど)」
- 2.25(木) NHK もぎたて「黄色いタスキ大作戦について」
- 2.26(金) NHK 中国地方ニュース「黄色いタスキ大作戦について」